

第2章

岡山県の保健医療の現状

第1節 人口等の状況

1 人口及び世帯数

(1) 人口の推移

令和4（2022）年10月1日現在の本県の人口は、186万2,012人（男性89万5,409人、女性96万6,603人）となっています。

これを過去の推移からみると、昭和45（1970）年の国勢調査以降ほぼ一貫して増加を続けてきましたが、平成17（2005）年をピークに、その後は減少傾向となっています。

平成27（2015）年の国勢調査から令和2（2020）年の国勢調査までの5年間では、人口は33,093人減少しています。

都道府県別将来推計人口（令和5（2023）年12月公表、国立社会保障・人口問題研究所）によると、令和32（2050）年には岡山県の人口は151万460人になると予測されており、人口が減少していく傾向は今後長期的に続くものと考えられます。

(2) 年齢階級別人口

令和4（2022）年の人口を年齢3区分にしてみると、年少人口（0～14歳）は22万1,886人、生産年齢人口（15～64歳）は101万3,491人、老年人口（65歳以上）は55万7,940人で、県人口に占める割合はそれぞれ12.4%、56.5%、31.1%となっています。

全国の年齢3区分割合をみると、それぞれ11.6%、59.4%、29.0%となっており、岡山県は全国値と比べ高齢化が進んでいることがわかります。

また、令和2（2020）年の年齢3区分割合と比べると、生産年齢人口は0.8ポイントの低下、老年人口は0.8ポイントの上昇となっています。

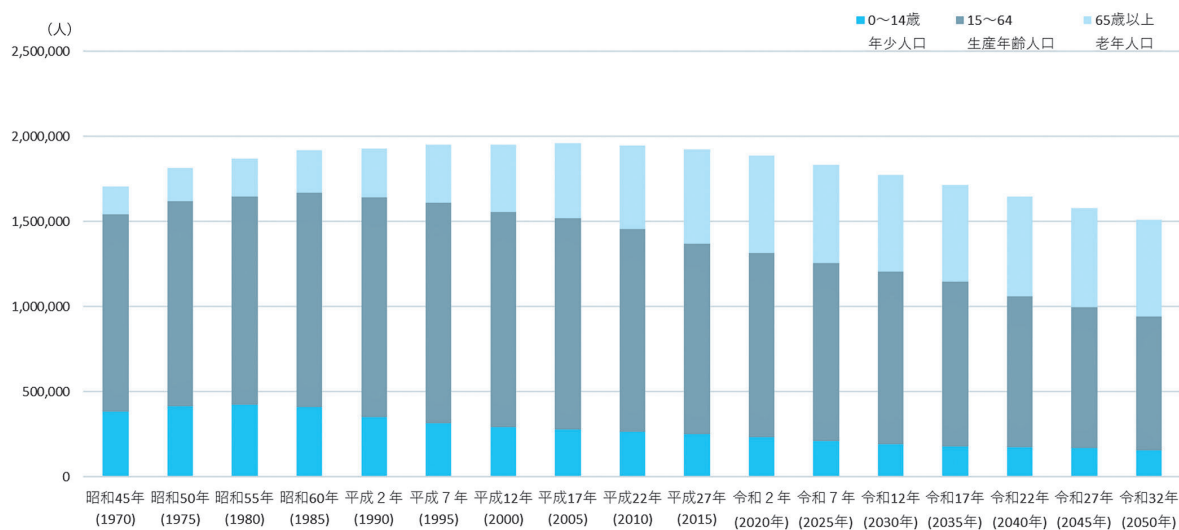
年少人口及び老年人口の割合は、令和7（2025）年にはそれぞれ11.5%、31.4%、令和32（2050）年には10.4%、37.8%と、より一層の少子化と高齢化が進むと予測されています。

(3) 世帯数

令和2（2020）年10月1日現在の本県における一般世帯数は79万9,611世帯で、一世帯当たりの人員は2.30人となっています。

世帯数は、昭和45（1970）年以降増加を続けていますが、逆に、一世帯当たりの人員は減少しています。

図表2-1-1-1 人口の推移及び年齢構成



(資料：総務省統計局「国勢調査」
 国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口」(令和5(2023)年12月公表))

図表2-1-1-2 令和4(2022)年保健医療圏別人口構成(令和4(2022)年10月1日現在)

二次保健医療圏	総数	0~14歳 年少人口		15~64歳 生産年齢人口		65歳以上 老年人口	
		人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)
県南東部保健医療圏	905,945	109,224	12.4	515,945	58.4	258,109	29.2
県南西部保健医療圏	690,613	83,351	12.9	363,123	56.1	200,674	31.0
高梁・新見保健医療圏	54,329	4,697	8.7	26,056	48.4	23,065	42.9
真庭保健医療圏	42,011	4,691	11.2	20,006	47.8	17,200	41.1
津山・英田保健医療圏	169,114	19,923	11.9	88,361	52.9	58,892	35.2
合計	1,862,012	221,886	12.4	1,013,491	56.5	557,940	31.1
全国	124,947,000	14,503,000	11.6	74,208,000	59.4	36,236,000	29.0

(資料：総務省統計局「人口推計」、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」)
 (注) 総数は年齢不詳を含んでいるため、年齢別人口の計とは合致しない。
 (注) 構成比については、分母から年齢不詳を除いて算出している。

図表2-1-1-3 一般世帯数の推移

区 分	一般世帯数	一世帯当たりの人員
昭和45(1970)年	493,819	3.41
50(1975)年	537,829	3.32
55(1980)年	560,043	3.29
60(1985)年	582,128	3.24
平成 2(1990)年	607,668	3.11
7(1995)年	656,761	2.92
12(2000)年	689,733	2.77
17(2005)年	724,474	2.63
22(2010)年	752,878	2.52
27(2015)年	771,242	2.43
令和 2(2020)年	799,611	2.30

(資料：総務省統計局「国勢調査」)

図表2-1-1-4

令和2(2020)年保健医療圏別世帯数

二次保健医療圏	一般世帯数
県南東部保健医療圏	404,396
県南西部保健医療圏	285,134
高梁・新見保健医療圏	24,125
真庭保健医療圏	16,112
津山・英田保健医療圏	69,844
合 計	799,611
全 国	55,704,949

(資料：総務省統計局「令和2(2020)年国勢調査」)

(4) 平均寿命

本県における令和2(2020)年の平均寿命は、男性81.90年、女性88.29年となっており、昭和45(1970)年と比較してみると、男性11.21年、女性11.92年延びています。

また、昭和45(1970)年以降、男性、女性とも図表2-1-1-5のとおり全国値を上回っています。

図表2-1-1-5 平均寿命の推移

年 次	男 性			女 性		
	全 国	岡山県	順 位	全 国	岡山県	順 位
昭和45(1970)年	69.31	70.69	5	74.66	76.37	1
50(1975)年	71.73	72.25	7	76.89	77.76	4
55(1980)年	73.35	74.21	7	78.76	79.78	2
60(1985)年	74.78	75.28	13	80.48	81.31	5
平成 2(1990)年	75.92	76.32	16	81.90	82.70	5
7(1995)年	76.38	77.03	14	82.85	83.81	6
12(2000)年	77.72	77.80	21	84.60	85.25	6
17(2005)年	78.56	79.22	11	85.52	86.49	4
22(2010)年	79.55	79.77	15	86.30	86.93	8
27(2015)年	80.75	81.03	13	86.99	87.67	2
令和 2(2020)年	81.49	81.90	10	87.60	88.29	1
令和 4(2022)年	81.05	-	-	87.09	-	-

(資料：厚生労働省「完全生命表」、「都道府県別生命表」、「令和4(2022)年簡易生命表」)

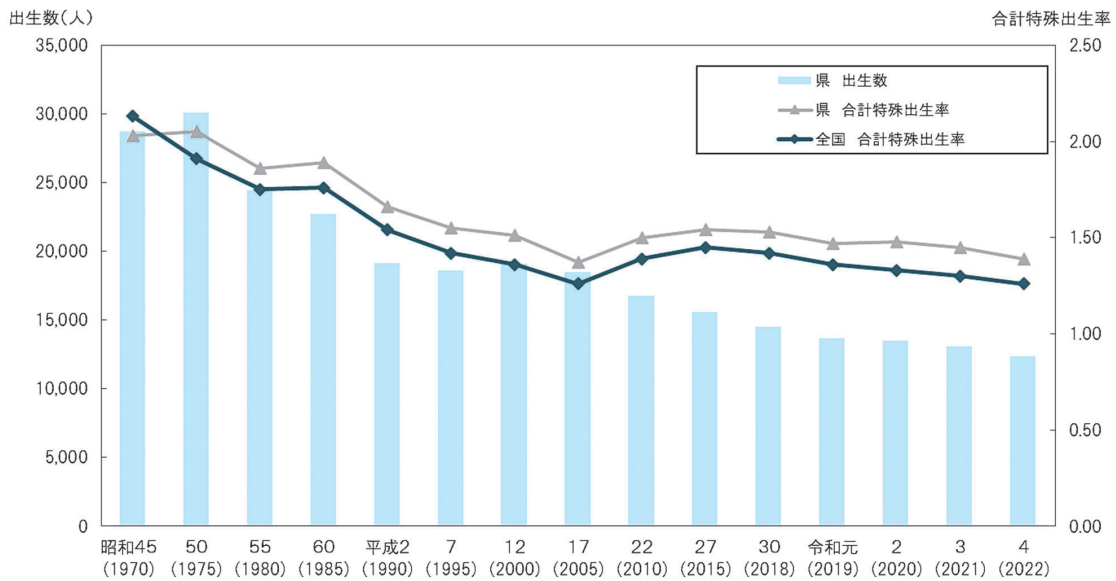
2 人口動態

(1) 出生

令和4(2022)年の出生数は1万2,371人で、年次推移をみると、昭和50(1975)年を境に減少に転じ、近年においては多少の増減はあるものの緩やかな減少傾向となっています。

また、合計特殊出生率(1人の女性が一生の間に産む子どもの数)は、令和4(2022)年では1.39(全国21位)と全国値の1.26を上回っています。

図表2-1-2-1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

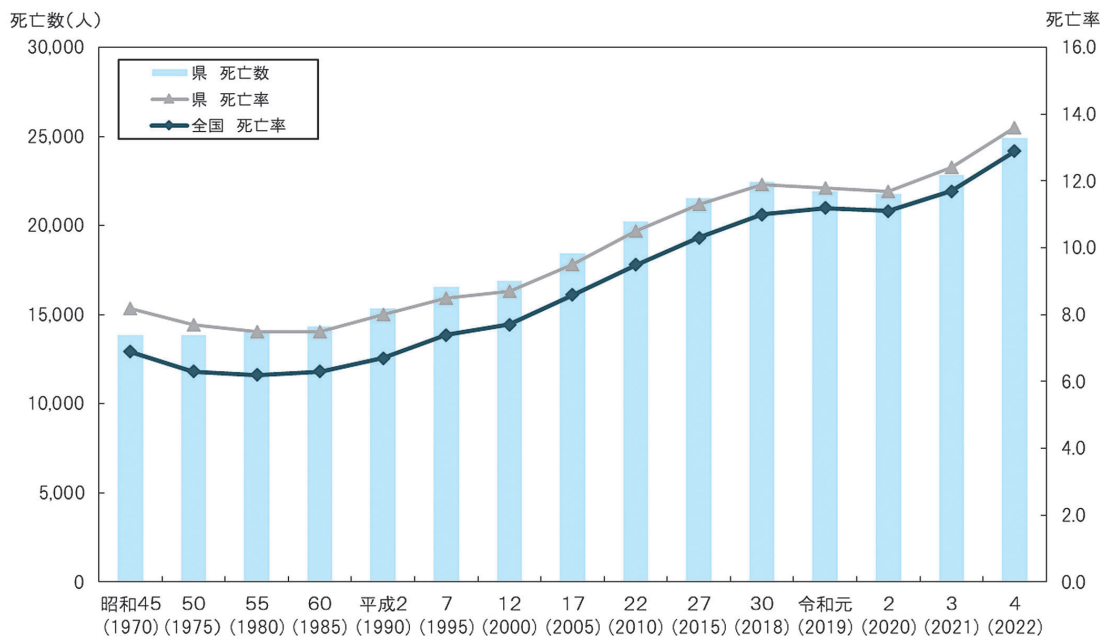
(2) 死亡

ア 死亡数と死亡率の推移

死亡数の年次推移をみると、昭和50（1975）年代半ばから、人口の高齢化を反映して緩やかな増加傾向にあります。

令和4（2022）年の死亡数は2万4,901人、死亡率（人口千対）は13.6（全国19位）で全国値の12.9と比べ0.7ポイント高くなっています。

図表2-1-2-2 死亡数及び死亡率



(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

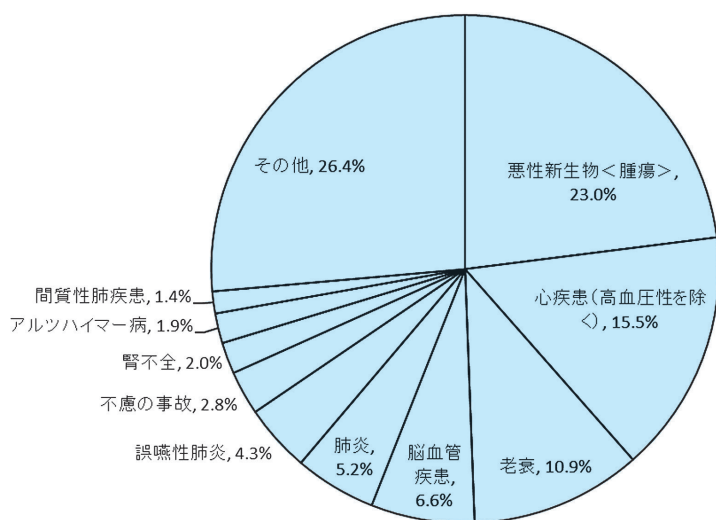
イ 主な死因別の死亡率

令和4（2022）年の主な死因別の割合をみると、図表2-1-2-3のようになっています。

主な死因別死亡率をみると、昭和57（1982）年から死亡順位の第1位になっている悪性新生物は、上昇傾向が続いており、令和4（2022）年では人口10万対で312.0（死亡数5,715人）となっています。

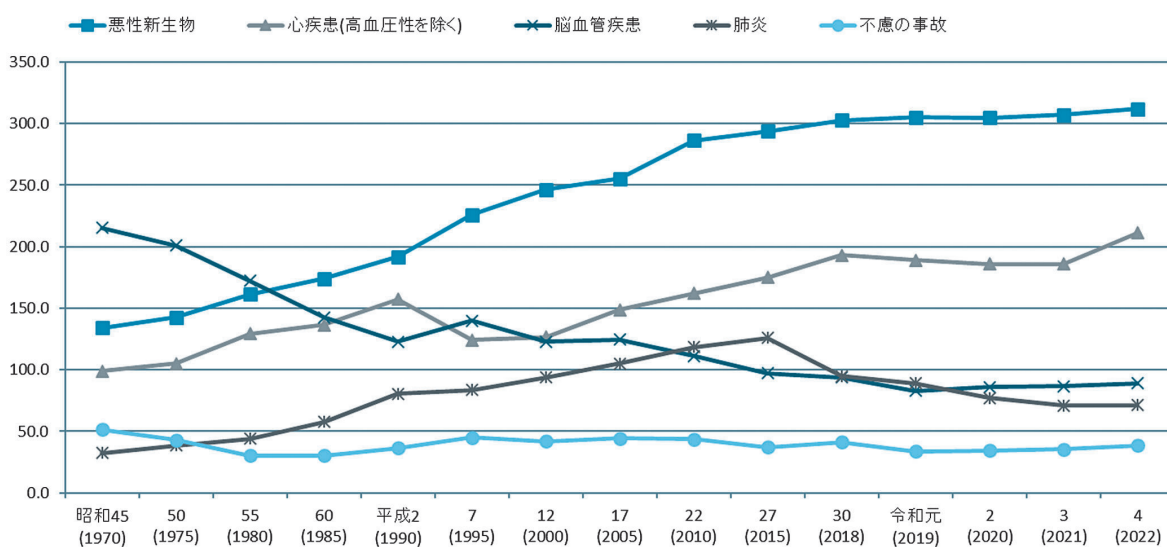
第2位は心疾患211.1（3,868人）、第3位は老衰148.1（2,714人）となっています。

図表2-1-2-3 令和4（2022）年 主な死因の内訳



(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

図表2-1-2-4 主な死因別の死亡率



(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

ウ 標準化死亡比※

悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患並びに悪性新生物を部位別にみた標準化死亡比は図表2-1-2-5のとおりです。平成25（2013）年～29（2017）年でみると、県全体では肝及び肝内胆管の悪性新生物及び急性心筋梗塞で全国値を上回っています。

図表2-1-2-5 保健医療圏別の標準化死亡比（平成25（2013）年～29（2017）年）

二次保健医療圏	全死因		悪性新生物										心疾患				脳血管疾患		
	男	女	胃		大腸		肝及び肝内胆管		気管、気管支及び肺		急性心筋梗塞				男	女			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
岡山県	97.8	95.9	93.9	91.2	87.4	93.6	79.0	81.2	113.3	107.1	98.4	86.7	97.9	97.0	172.1	162.1	96.5	95.2	
県南東部保健医療圏	岡山市	94.9	93.7	94.3	93.6	85.9	95.5	84.2	87.5	118.2	110.7	95.6	88.7	93.4	89.0	170.6	160.9	93.4	94.0
	岡山市以外	101.1	99.0	92.5	89.9	75.8	99.8	78.6	77.2	103.3	99.7	108.0	84.6	105.9	99.2	175.4	171.7	90.5	87.4
県南西部保健医療圏	倉敷市	95.4	94.3	93.8	89.7	88.9	90.4	78.9	84.0	106.9	90.8	96.1	96.9	92.8	99.8	150.8	144.0	94.4	90.3
	倉敷市以外	98.0	97.5	96.3	93.4	95.8	90.6	77.3	78.3	116.3	119.8	104.9	79.5	94.3	98.6	154.8	142.5	106.2	111.1
高梁・新見保健医療圏	96.4	93.5	91.1	89.3	96.1	93.6	66.2	75.4	123.1	113.7	91.3	79.1	101.7	102.1	219.9	188.8	98.2	100.5	
真庭保健医療圏	99.6	94.7	87.9	86.2	84.2	96.4	74.8	70.7	100.0	84.8	86.8	90.7	104.6	101.4	162.0	131.7	112.4	97.3	
津山・英田保健医療圏	106.0	100.0	95.5	89.7	88.0	90.4	77.9	76.2	121.3	125.4	99.0	77.2	110.0	103.4	216.7	204.5	96.0	92.6	

（資料：厚生労働省「平成25（2013）年～29（2017）年人口動態統計特殊報告」）

※ 標準化死亡比（SMR）

死亡率を比較する場合、高齢人口の多い市町村では死亡数が大きくなり、その結果、死亡数を人口で単純に割る死亡率の算出方法では、死亡率はおのずと高くなります。

このような人口構成の違いによる死亡率の高低を補正する方法の一つとして、「標準化死亡比（SMR）」があります。

この指標は、それぞれの地域の年齢階級別人口と全国の年齢階級別死亡率により算出されたそれぞれの地域の期待死亡数に対するその地域の実際の死亡数の比を示したものです。

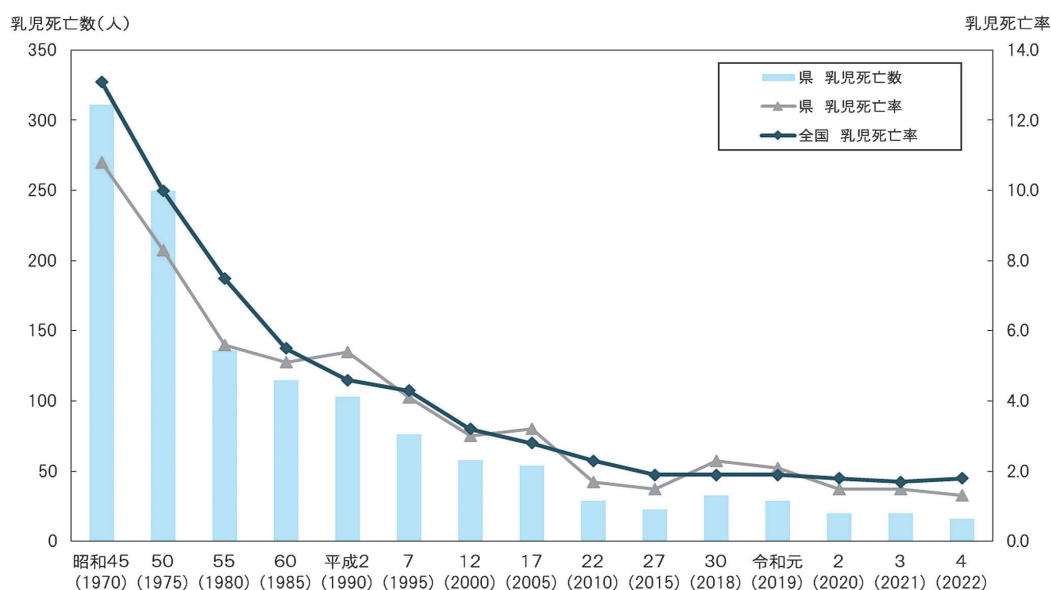
各保健医療圏のSMRが100より大きい場合は全国の死亡率より高く、100より小さい場合は全国の死亡率より低いことを示します。

（3）乳児死亡

乳児死亡（生後1年未満の死亡）数及び乳児死亡率（出生千対）並びに新生児死亡（生後28日未満の死亡）数及び新生児死亡率（出生千対）の年次推移は、図表2-1-2-6、図表2-1-2-7のとおりです。

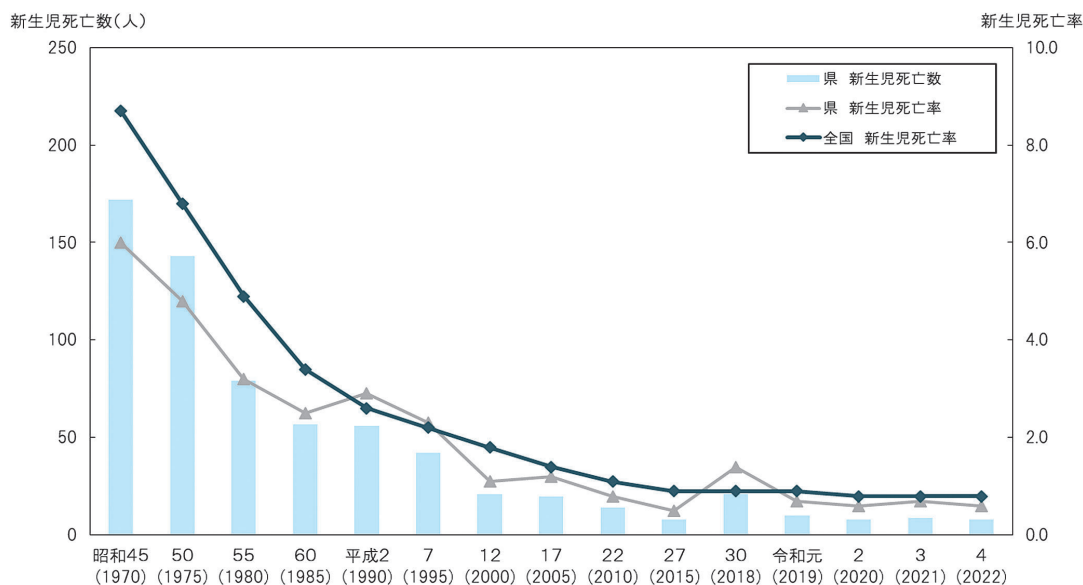
令和4（2022）年の乳児死亡数は16人、乳児死亡率（出生千対）は1.3（全国11位）で全国値の1.8と比べ0.5ポイント低くなっています。また、新生児死亡数は8人、新生児死亡率（出生千対）は0.6（全国18位）で全国値の0.8と比べ0.2ポイント低くなっています。

図表2-1-2-6 乳児死亡数及び乳児死亡率（出生千対）の年次推移



(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

図表2-1-2-7 新生児死亡数及び新生児死亡率（出生千対）の年次推移



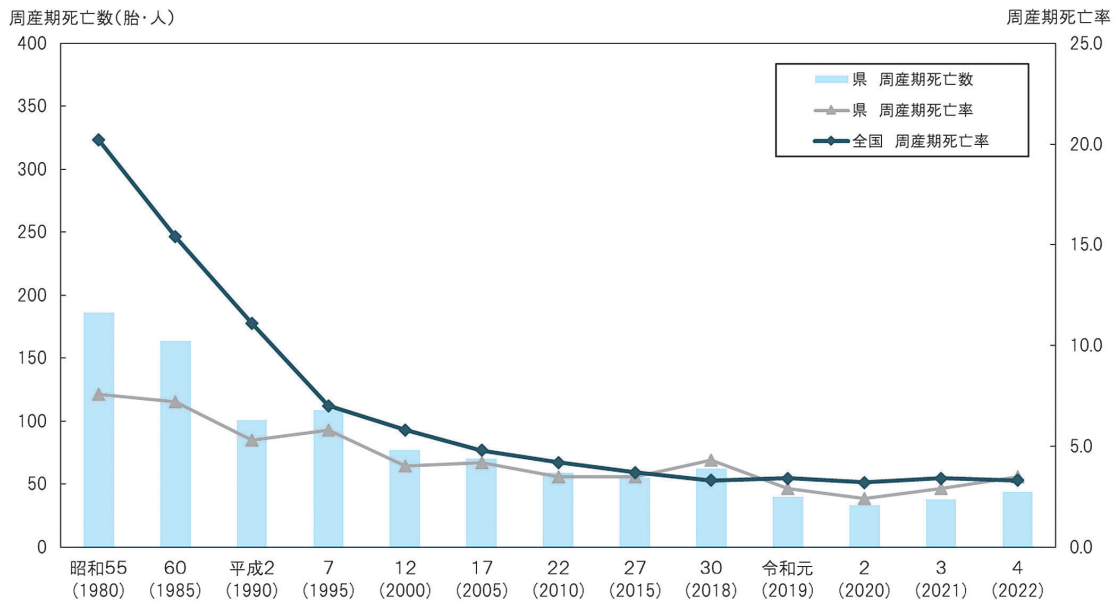
(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

(4) 周産期死亡

周産期死亡（妊娠満22週以後の死産と生後7日未満の早期新生児死亡を合わせたもの）数及び周産期死亡率（出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対）の年次推移は図表2-1-2-8のとおりで、平成12（2000）年頃までは減少傾向にありましたが、以後ほぼ横ばい傾向になっています。

令和4（2022）年の周産期死亡数は44胎・人、周産期死亡率は3.5（全国30位）で全国値の3.3と比べ、0.2ポイント高くなっています。

図表2-1-2-8 周産期死亡数及び周産期死亡率（出生千対）の年次推移



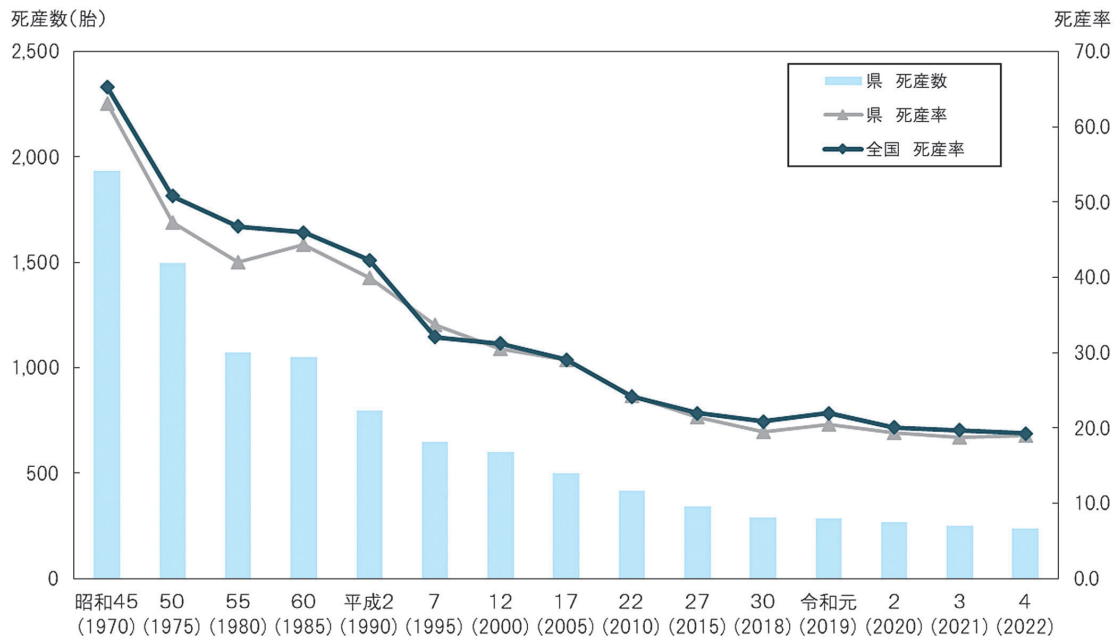
(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

(5) 死産

死産（妊娠満12週以後の死児の出産）数及び死産率（出産（出生＋死産）千対）の年次推移は、図表2-1-2-9のとおりで、平成7（1995）年までの減少傾向と比べると、近年は緩やかな減少傾向になっています。

令和4（2022）年の死産数は239胎、死産率は19.0（全国22位）で、全国値の19.3と比べ0.3ポイント低くなっています。

図表2-1-2-9 死産数及び死産率（出生千対）の年次推移



(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

第2節 保健医療資源の状況

1 医療施設

(1) 病院

令和3（2021）年10月1日現在の本県の病院数は159施設、人口10万対では8.5施設で全国値の6.5施設を上回っています。

病院の種別では、全病院数の89.9%にあたる143施設が一般病院で、16施設が精神科病院です。

また、病床数は27,186床、人口10万対は1,449.3床で全国値の1,195.2床を上回っています。

病床の種類別では、一般病床、精神病床、結核病床の人口10万対病床数が全国値を上回っています。

図表2-2-1-1 病院施設数及び病院病床数（令和3（2021）年10月1日現在）

二次保健医療圏	病院施設数			病院病床数					
	一般病院	精神科病院		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	
県南東部 保健医療圏	75	69	6	13,853	9,338	1,460	2,967	80	8
	8.2	7.6	0.7	1,520.4	1,024.9	160.2	325.6	8.8	0.9
県南西部 保健医療圏	53	47	6	9,468	6,538	1,532	1,363	25	10
	7.6	6.8	0.9	1,363.0	941.2	220.6	196.2	3.6	1.4
高梁・新見 保健医療圏	8	7	1	872	399	233	240		
	14.3	12.5	1.8	1,562.9	715.1	417.6	430.2		
真庭 保健医療圏	7	6	1	729	383	176	170		
	16.4	14.0	2.3	1,703.3	894.9	411.2	397.2		
津山・英田 保健医療圏	16	14	2	2,264	1,097	614	535	10	8
	9.3	8.2	1.2	1,321.0	640.1	358.2	312.2	5.8	4.7
合 計	159	143	16	27,186	17,755	4,015	5,275	115	26
	8.5	7.6	0.9	1,449.3	946.6	214.0	281.2	6.1	1.4
全 国	8,205	7,152	1,053	1,500,057	886,056	284,662	323,502	3,944	1,893
	6.5	5.7	0.8	1,195.2	706.0	226.8	257.8	3.1	1.5

（資料：厚生労働省「令和3（2021）年医療施設調査」、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」）
（備考：上段は実数、下段は人口10万対）

(2) 一般診療所

令和3（2021）年10月1日現在の本県の一般診療所数は1,636施設、人口10万対は87.2施設で全国値の83.1施設を上回っています。

病床数は1,918床、人口10万対は102.3床で全国値の66.7床を上回っています。

(3) 歯科診療所

令和3（2021）年10月1日現在の本県の歯科診療所数は1,001施設、人口10万対は53.4施設で全国値の54.1施設を下回っています。

図表2-2-1-2 診療所施設数及び診療所病床数（令和3（2021）年10月1日現在）

二次保健医療圏	一般診療所			歯科診療所
	施設数	病床数	うち療養病床数	施設数
県南東部保健医療圏	868	987	174	552
	95.3	108.3	19.1	60.6
県南西部保健医療圏	506	594	79	328
	72.8	85.5	11.4	47.2
高梁・新見保健医療圏	61	48		25
	109.3	86.0		44.8
真庭保健医療圏	42	19		19
	98.1	44.4		44.4
津山・英田保健医療圏	159	270	38	77
	92.8	157.5	22.2	44.9
合 計	1,636	1,918	291	1,001
	87.2	102.3	15.5	53.4
全 国	104,292	83,668	6,310	67,899
	83.1	66.7	5.0	54.1

（資料：厚生労働省「令和3（2021）年医療施設調査」、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」）

（備考：上段は実数、下段は人口10万対）

(4) 診療科目

令和2（2020）年の県内の診療科目別にみた病院及び一般診療所数（重複計上）は図表2-2-1-3のとおりです。

図表2-2-1-3 保健医療圏別、診療科目別にみた病院及び一般診療所数（重複計上）
（令和2（2020）年10月1日現在）

区分	施設数	内	呼	循	消	腎	脳	糖	血	皮	ア	リ	感	小	精	心	外	呼	心	乳	気	消	
		科	吸	環	化	臓	神	尿	液	膚	レ	ウ	染	児	神	療	科	器	臟	腺	管	化	
		器	器	器	器	内	經	病	内	科	ル	マ	症	科	科	内	科	外	血	食	器	器	
		内	内	内	内	科	内	内	科	科	ギ	チ	内	科	科	科	科	科	管	道	外	科	
		科	科	科	科	科	科	科	科	科	ー	コ	科	科	科	科	科	科	外	外	科	科	
病院	県南東部保健医療圏	76	66	25	39	33	12	21	12	3	32	4	13	1	22	27	14	44	7	12	7	2	18
	県南西部保健医療圏	53	47	19	28	26	8	17	12	3	27	5	9	-	19	15	3	36	6	5	8	1	18
	高梁・新見保健医療圏	8	7	2	5	2	1	1	4	2	4	-	2	-	2	2	2	6	1	-	2	-	2
	真庭保健医療圏	7	6	4	3	3	1	2	3	-	4	2	2	-	1	1	1	6	1	2	1	-	4
	津山・英田保健医療圏	17	15	3	8	8	3	4	4	1	4	-	-	2	5	2	1	8	1	4	1	-	3
	合計	161	141	53	83	72	25	45	35	9	71	11	26	3	49	47	21	100	16	23	19	3	45
一般診療所	県南東部保健医療圏	869	558	86	101	156	19	19	41	7	104	78	45	3	185	67	50	104	3	5	5	1	15
	県南西部保健医療圏	505	335	50	62	96	8	13	18	5	47	52	30	5	123	27	21	50	-	-	2	2	5
	高梁・新見保健医療圏	61	55	1	1	2	-	1	-	-	2	-	2	-	13	3	1	9	-	-	-	-	-
	真庭保健医療圏	44	39	2	6	7	1	1	1	-	3	1	1	-	9	1	-	13	-	-	-	-	-
	津山・英田保健医療圏	158	121	11	18	27	5	3	7	2	11	7	4	3	33	8	4	18	-	-	2	1	-
	合計	1,637	1,108	150	188	288	33	37	67	14	167	138	82	11	363	106	76	194	3	5	9	4	20

区分	泌尿器科	肛	脳	整	形	美	眼	耳	小	産	産	婦	リ	放	麻	病	臨	救	歯	矯	小	歯	
		門	神	形	成	容	科	鼻	児	婦	人	人	ハ	射	酔	理	床	急	科	正	児	科	
	科	外	経	外	外	外	こ	ん	外	人	人	ビ	線	科	診	検	科	科	歯	歯	口	科	
		科	外	外	外	外	う	ご	科	科	科	テ	科	断	査	科	科	科	科	科	腔	科	
		科	科	科	科	科	う	う	科	科	科	ー	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	
病院	県南東部保健医療圏	28	9	25	46	17	3	31	18	2	9	3	12	54	37	33	9	3	10	20	1	1	2
	県南西部保健医療圏	22	13	18	33	9	4	18	16	2	9	1	4	37	28	21	3	2	4	18	3	2	6
	高梁・新見保健医療圏	3	1	3	5	2	-	3	3	-	-	-	2	5	5	1	-	-	-	1	-	-	-
	真庭保健医療圏	2	4	4	6	1	-	4	1	-	1	-	2	5	3	4	-	-	-	-	-	-	-
	津山・英田保健医療圏	4	1	4	7	2	-	4	5	1	2	-	-	11	8	4	1	-	1	4	-	-	1
	合計	59	28	54	97	31	7	60	43	5	21	4	20	112	81	63	13	5	15	43	4	3	9
一般診療所	県南東部保健医療圏	34	20	11	107	13	11	63	53	3	22	2	16	131	59	19	-	-	1	18	1	2	2
	県南西部保健医療圏	23	7	13	61	6	2	46	37	-	10	2	5	88	34	7	-	-	1	5	-	-	-
	高梁・新見保健医療圏	-	-	1	2	-	-	3	2	-	2	-	1	3	2	-	-	-	-	2	1	-	-
	真庭保健医療圏	3	3	1	7	1	1	3	3	1	-	-	-	4	1	-	-	-	-	2	-	-	-
	津山・英田保健医療圏	4	2	2	18	3	-	9	4	-	4	-	-	10	5	6	-	-	-	2	-	1	-
	合計	64	32	28	195	23	14	124	99	4	38	4	22	236	101	32	-	-	2	29	2	3	2

（資料：厚生労働省「令和2（2020）年医療施設調査」）

2 保健関係施設

(1) 市町村保健センター

市町村保健センターは、全県で64か所設置されており、市町村が設置する地域保健活動の拠点施設として位置付けられており、生活習慣病対策や母子保健事業等の対人保健サービスを行っています。

図表2-2-2-1 市町村保健センター設置数（令和5（2023）年4月1日現在）

保健医療圏	県南東部	県南西部	高梁・新見	真 庭	津山・英田	計
市町村保健センター	15	15	8	8	18	64

（資料：岡山県福祉企画課）

(2) 保健所

保健所は、県内に県保健所が5か所、政令指定都市である岡山市及び中核市である倉敷市に市保健所がそれぞれ1か所設置されています。

保健所では、感染症対策、精神保健、難病など広域的で専門的な対人保健サービスや、医薬、食品衛生、生活衛生施策などを行っています。また、これらに加え、市保健所では、母子健康相談、一般栄養相談、乳幼児健康診査、歯科相談なども行っています。

図表2-2-2-2 保健所設置数（令和5（2023）年4月1日現在）

保健医療圏	県南東部	県南西部	高梁・新見	真 庭	津山・英田	計
県 保 健 所	1	1	1	1	1	5
市 保 健 所	1	1	0	0	0	2

（資料：岡山県福祉企画課）

(3) その他の施設

名 称	施 設 の 概 要
岡山県精神保健福祉センター 岡山市こころの健康センター	精神保健及び精神障害のある人の福祉に関する総合的な技術的中核機関として、知識の普及、調査研究や相談指導事業を行うとともに、保健所等に対する技術支援を行っています。
岡山県環境保健センター	試験研究・検査業務の技術的中核機関として、保健衛生、環境行政上必要となる検査や、調査研究を行うほか、保健所等の技術職員に対する研修指導も行っています。
岡山県南部健康づくりセンター	健康づくりの専門的な拠点施設として、主に生活習慣病のリスク保有者、生活習慣病患者、高齢者等を対象に、メディカルチェック、ヘルスチェックを行い、センター内の設備を使って専門的な健康づくり指導を行っています。
岡山県動物愛護センター	動物行政の拠点施設として、狂犬病予防業務や動物取扱業者等の指導を行うとともに、犬のしつけ方教室や動物ふれあい教室、譲渡事業等も実施し、動物愛護思想の普及啓発を行っています。

3 保健医療従事者

(1) 医師、歯科医師、薬剤師

令和2（2020）年12月31日現在の本県の医師・歯科医師・薬剤師数は図表2-2-3-1のとおりです。人口10万対のそれぞれの人数を全国値と比較してみると、医師・歯科医師は334.2人と96.0人で全国値を上回っていますが、薬剤師は227.4人で、全国値を下回っています。

図表2-2-3-1 医師、歯科医師、薬剤師数（登録者数）（令和2（2020）年12月31日現在）

二次保健医療圏	医師	歯科医師	薬剤師
県南東部保健医療圏	3,547	1,117	2,492
	389.1	122.5	273.4
県南西部保健医療圏	2,211	521	1,313
	316.8	74.6	188.1
高梁・新見保健医療圏	101	35	99
	177.6	61.5	174.0
真庭保健医療圏	79	22	69
	182.6	50.8	159.5
津山・英田保健医療圏	352	112	308
	203.9	64.9	178.4
合計	6,290	1,807	4,281
	334.2	96.0	227.4
全国	339,623	107,443	321,982
	269.2	85.2	255.2

（資料：厚生労働省「令和2（2020）年医師・歯科医師・薬剤師調査」、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」）
（備考：上段は実数、下段は人口10万対）

(2) 保健師、助産師、看護師、准看護師

令和4（2022）年12月31日現在の本県の保健師、助産師、看護師、准看護師数は図表2-2-3-2のとおりです。人口10万対のそれぞれの人数を全国値と比較してみると、保健師数と看護師数が全国値を上回っています。

図表2-2-3-2 保健師、助産師、看護師、准看護師数（従事者数）（令和4（2022）年12月31日現在）

二次保健医療圏	保健師	助産師	看護師	准看護師
県南東部保健医療圏	535	282	12,633	1,477
	59.1	31.1	1,394.5	163.0
県南西部保健医療圏	355	232	8,775	1,504
	51.4	33.6	1,270.6	217.8
高梁・新見保健医療圏	77	11	621	203
	141.7	20.2	1,143.0	373.6
真庭保健医療圏	57	12	546	89
	135.7	28.6	1,299.7	211.8
津山・英田保健医療圏	135	23	2,079	368
	79.8	13.6	1,229.3	217.6
合計	1,159	560	24,654	3,641
	62.2	30.1	1,324.1	195.5
全国	60,299	38,063	1,311,687	254,329
	48.3	30.5	1,049.8	203.5

（資料：衛生行政報告例、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」）
（備考：上段は実数、下段は人口10万対）

第3節 受療の状況

1 県内の患者数及び受療率

(1) 推移

県内の推計患者数（「患者調査」の調査日1日当たり）の推移をみると、平成29（2017）年時点に比べ令和2（2020）年では入院患者が1千人の減、外来患者が0.2千人の増となっています。

図表2-3-1-1 県内推計患者数の推移

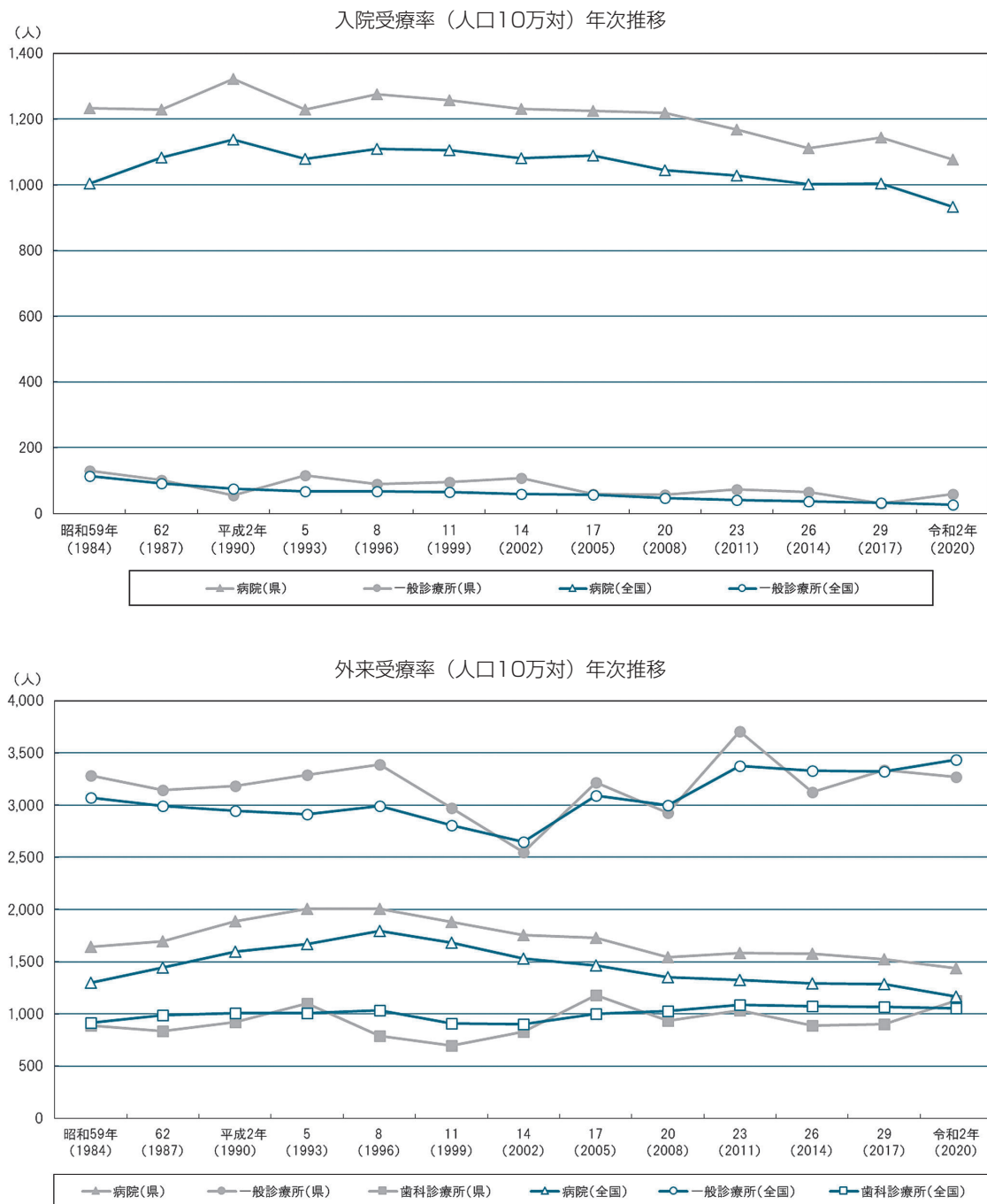
（単位：千人）

	入 院			外 来			
	総 数	病 院	一般診療所	総 数	病 院	一般診療所	歯科診療所
昭和59(1984)年	25.9	23.5	2.5	110.7	31.3	62.5	16.9
62(1987)年	25.6	23.7	2.0	109.3	32.7	60.6	16.0
平成 2(1990)年	26.5	25.5	1.0	115.6	36.4	61.4	17.8
5(1993)年	26.1	23.8	2.2	123.8	38.9	63.8	21.2
8(1996)年	26.7	24.9	1.8	120.8	39.2	66.2	15.4
11(1999)年	26.5	24.7	1.9	108.6	36.8	58.2	13.6
14(2002)年	26.1	24.0	2.1	100.2	34.3	49.7	16.2
17(2005)年	25.1	24.0	1.1	119.8	33.8	63.0	23.0
20(2008)年	24.8	23.8	1.1	105.3	30.1	57.0	18.2
23(2011)年	24.1	22.7	1.4	122.8	30.8	71.9	20.1
26(2014)年	22.6	21.4	1.2	107.5	30.3	60.1	17.1
29(2017)年	22.4	21.8	0.6	110.0	29.1	63.7	17.2
令和 2(2020)年	21.4	20.3	1.1	110.2	27.1	61.8	21.3

（資料：厚生労働省「患者調査」）

全国と本県の入院、外来の受療率（人口10万人に対する推計患者数）の推移をみると、本県の受療率は、病院においては入院受療率、外来受療率とも、全国値を上回っています。

図表2-3-1-2 受療率の推移



(資料：厚生労働省「患者調査」)

(2) 傷病分類別の受療率及び患者数

令和2（2020）年調査による全国及び県内の患者の受療率（人口10万対）及び県内の推計患者数を傷病の種類別に示すと図表2-3-1-3のとおりです。

図表2-3-1-3 傷病分類別の受療率と推計患者数

（単位：患者数は人、受療率は人口10万対）

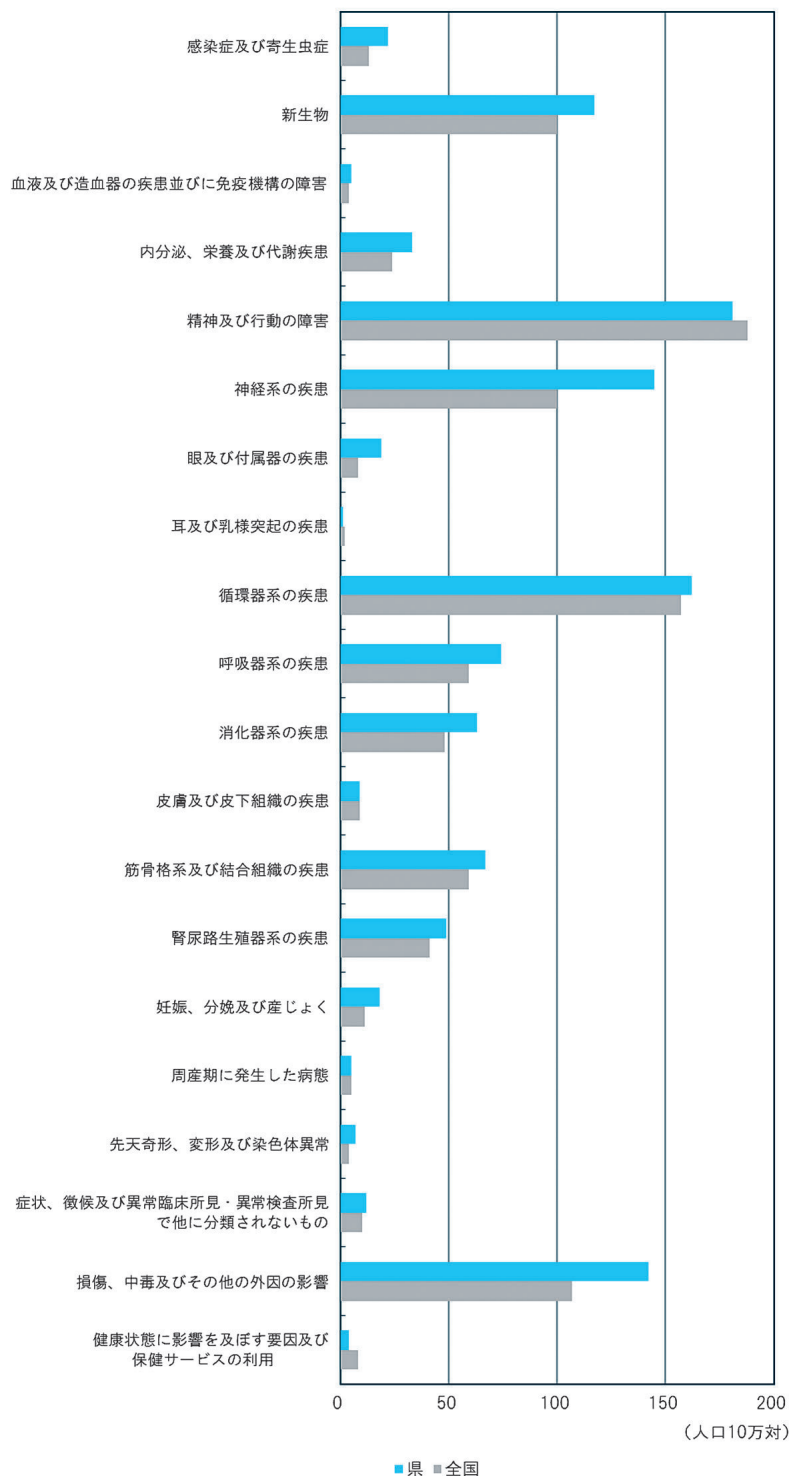
傷病分類	全国受療率		県内受療率		県内推計患者数	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来
総数	960	5,658	1,135	5,836	21,400	110,200
・感染症及び寄生虫症	13	103	22	96	400	1,800
腸管感染症 (再掲)	3	16	3	17	100	300
結核 (再掲)	2	1	1	0	0	0
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患 (再掲)	1	42	2	32	0	600
真菌症 (再掲)	1	24	0	26	0	500
・新生物	100	196	117	225	2,200	4,300
悪性新生物 (再掲)	89	144	104	168	2,000	3,200
胃の悪性新生物 (再掲)	8	13	13	16	200	300
結腸及び直腸の悪性新生物 (再掲)	14	21	15	33	300	600
気管、気管支及び肺の悪性新生物 (再掲)	13	15	15	17	300	300
・血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	4	14	5	27	100	500
・内分泌、栄養及び代謝疾患	24	343	33	371	600	7,000
甲状腺障害 (再掲)	1	26	1	34	0	600
糖尿病 (再掲)	12	170	16	190	300	3,600
・精神及び行動の障害	188	211	181	201	3,400	3,800
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	113	40	102	43	1,900	800
気分〔感情〕障害躁うつ病を含む (再掲)	22	72	25	36	500	700
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 (再掲)	5	50	4	37	100	700
・神経系の疾患	100	131	145	201	2,700	3,800
・眼及び付属器の疾患	8	237	19	240	400	4,500
白内障 (再掲)	5	51	15	45	300	800
・耳及び乳様突起の疾患	2	76	1	109	0	2,000
・循環器系の疾患	157	652	162	618	3,100	11,700
高血圧性疾患 (再掲)	4	471	4	408	100	7,700
心疾患（高血圧性のものを除く） (再掲)	46	103	49	95	900	1,800
虚血性心疾患 (再掲)	9	42	7	34	100	600
脳血管疾患 (再掲)	98	59	99	95	1,900	1,800
・呼吸器系の疾患	59	371	74	405	1,400	7,700
急性上気道感染症 (再掲)	1	128	-	148	-	2,800
肺炎 (再掲)	19	3	24	2	500	0
急性気管支炎及び急性細気管支炎 (再掲)	1	37	2	38	0	700
気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患 (再掲)	5	14	5	20	100	400
喘息 (再掲)	1	71	1	55	0	1,000
・消化器系の疾患	48	1,007	63	1,185	1,200	22,400
う蝕 (再掲)	0	231	-	241	-	4,600
歯肉炎及び歯周疾患 (再掲)	0	401	-	475	-	9,000
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍 (再掲)	2	9	3	9	100	200
胃炎及び十二指腸炎 (再掲)	0	48	0	53	0	1,000
肝疾患 (再掲)	5	20	6	33	100	600
・皮膚及び皮下組織の疾患	9	247	9	219	200	4,100
・筋骨格系及び結合組織の疾患	59	718	67	638	1,300	12,000
炎症性多発性関節障害 (再掲)	3	42	6	36	100	700
関節症 (再掲)	14	155	14	137	300	2,600
脊柱障害 (再掲)	19	345	20	267	400	5,000
骨の密度及び構造の障害 (再掲)	1	51	3	54	0	1,000
・腎尿路生殖器系の疾患	41	241	49	234	900	4,400
糸球体疾患、腎尿管管間質性疾患及び腎不全 (再掲)	27	106	34	56	600	1,100
前立腺肥大症 (再掲)	1	28	2	27	0	500
乳房及び女性生殖器の疾患 (再掲)	2	70	2	99	0	1,900
・妊娠、分娩及び産じょく	11	10	18	13	300	300
妊娠高血圧症候群 (再掲)	0	0	1	-	0	-
・周産期に発生した病態	5	3	5	1	100	0
・先天奇形、変形及び染色体異常	4	11	7	12	100	200
・症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	10	59	12	90	200	1,700
・損傷、中毒及びその他の外因の影響	107	229	142	240	2,700	4,500
骨折 (再掲)	77	77	101	73	1,900	1,400
・健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	8	794	4	711	100	13,400
歯の補てつ (再掲)	0	195	-	202	-	3,800

（資料：厚生労働省「令和2（2020）年患者調査」）

ア 入院受療率

人口10万人当たりの傷病分類別の入院受療率（全国、県）の状況は図表2-3-1-4のとおりです。「精神及び行動の障害」「循環器系の疾患」の受療率が高く、全国と比較した場合、ほとんどの疾病で全国値を上回っています。

図表2-3-1-4 入院受療率

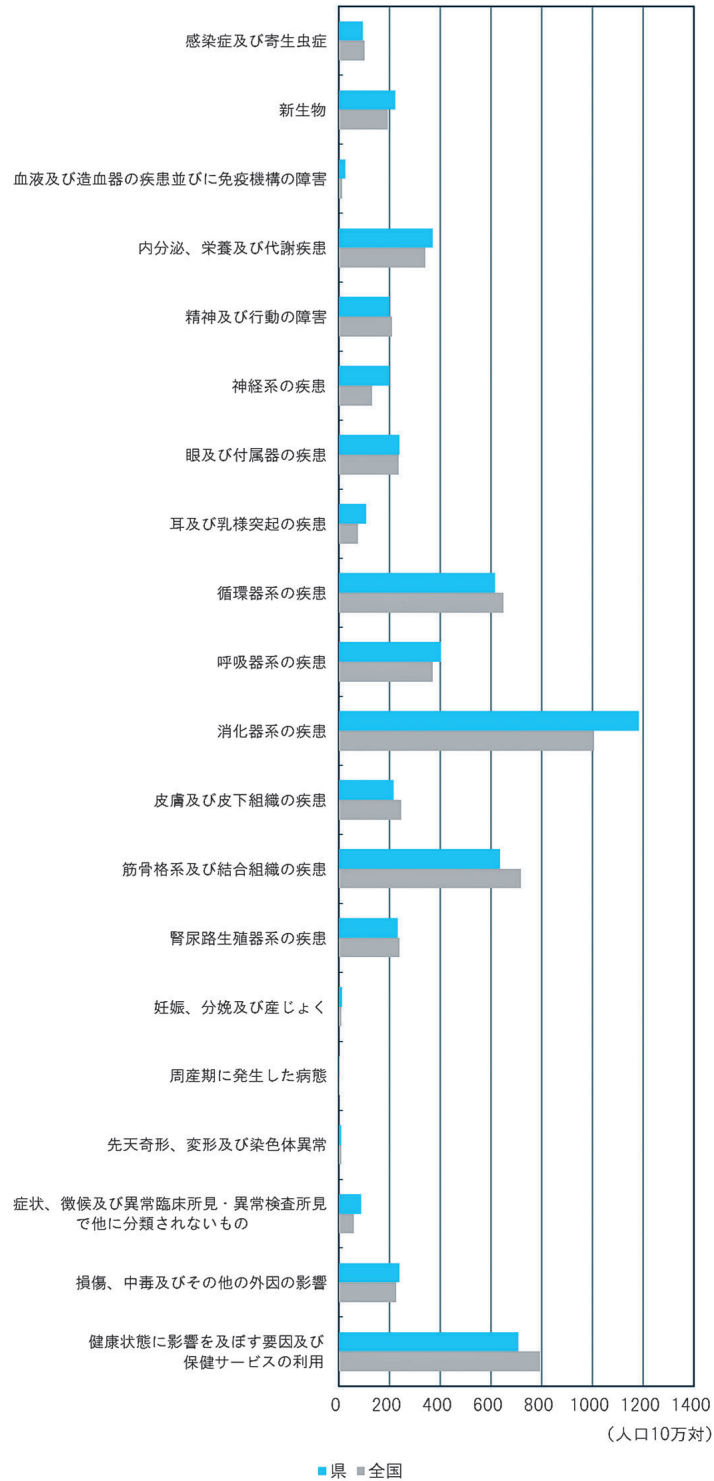


(資料：厚生労働省「令和2（2020）年患者調査」)

イ 外来受療率

人口10万人当たりの傷病分類別の外来受療率（全国、県）の状況は図表2-3-1-5のとおりです。「消化器系の疾患」や「筋骨格系及び結合組織の疾患」が全国同様高くなっています。

図表2-3-1-5 外来受療率

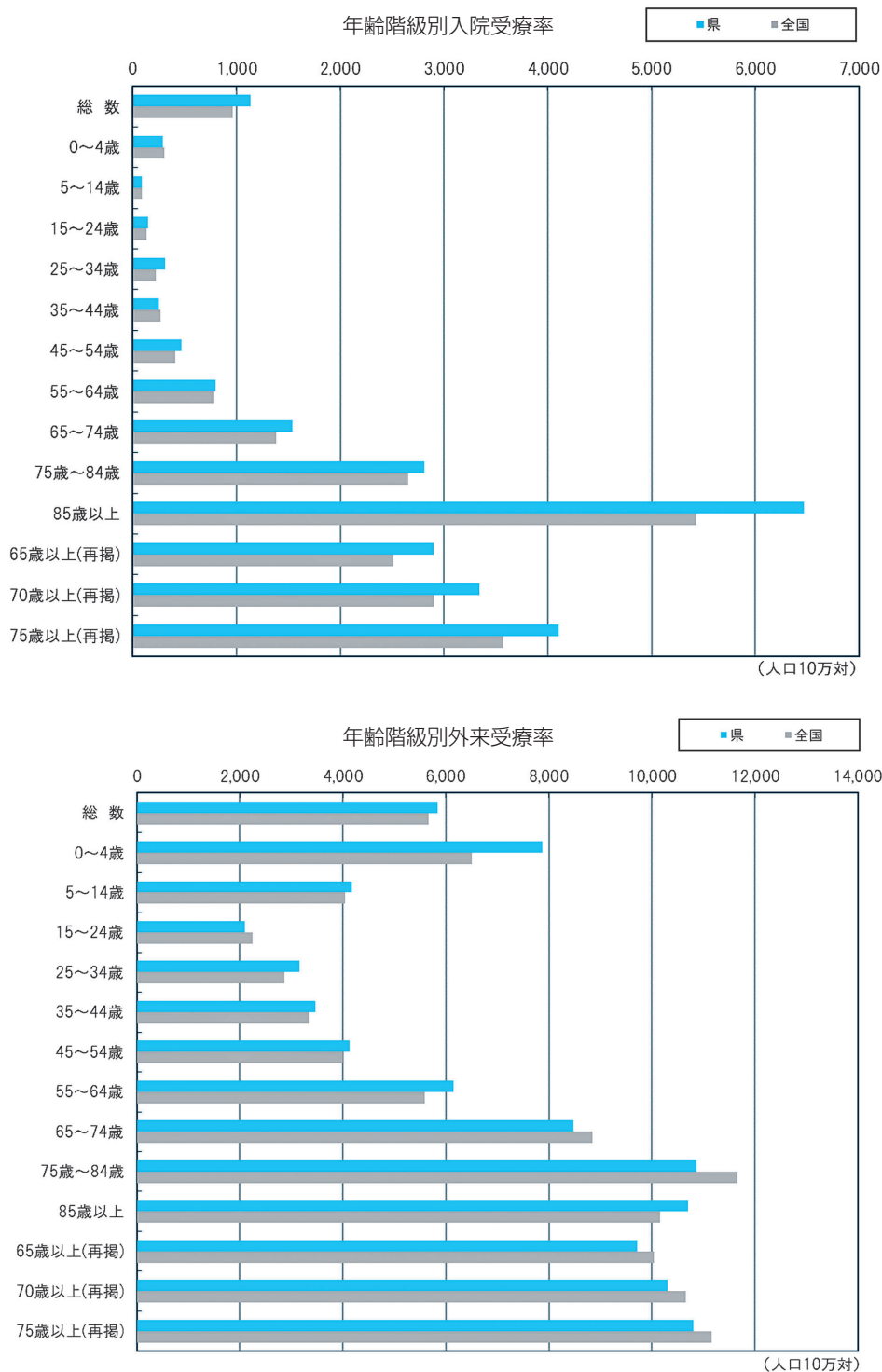


(資料：厚生労働省「令和2（2020）年患者調査」)

(3) 年齢階級別の受療率

県内の受療率を年齢階級別にみると、入院では5～14歳で最も低くなり、以降年齢が高くなるほど受療率も高くなっています。また、外来では、乳幼児期の受療率が高く、15～24歳で最も低くなり、以降年齢が高くなるほど受療率も高くなっています。

図表2-3-1-6 年齢階級別の受療率



(資料：厚生労働省「令和2（2020）年患者調査」)

2 地域別の受療動向（入院患者）

県内の病院に入院している患者の住所地別に、どこの保健医療圏で受療しているかを示す割合は、図表2-3-2-1のとおりです。

自圏内での受療が県南東部では92.2%、県南西部では86.8%となっていますが、津山・英田で81.4%、真庭で64.8%、最も低い高梁・新見では63.6%となっており、岡山県全体では86.8%にとどまっています。

図表2-3-2-1 病院の推計入院患者数の構成割合

(単位：%)

受療地	患者住所地	
	二次保健医療圏内	二次保健医療圏外
岡山県	86.8	13.2
県南東部保健医療圏	92.2	7.8
県南西部保健医療圏	86.8	13.2
高梁・新見保健医療圏	63.6	36.4
真庭保健医療圏	64.8	35.2
津山・英田保健医療圏	81.4	18.6

(資料：厚生労働省「令和2（2020）年患者調査」)

3 地域別の病床利用率・平均在院日数

令和3（2021）年の病床利用率及び平均在院日数は図表2-3-3-1のとおりです。

都道府県別に病床利用率をみると図表2-3-3-2のとおりで、岡山県の72.6%に対し、全国が76.1%となっています。

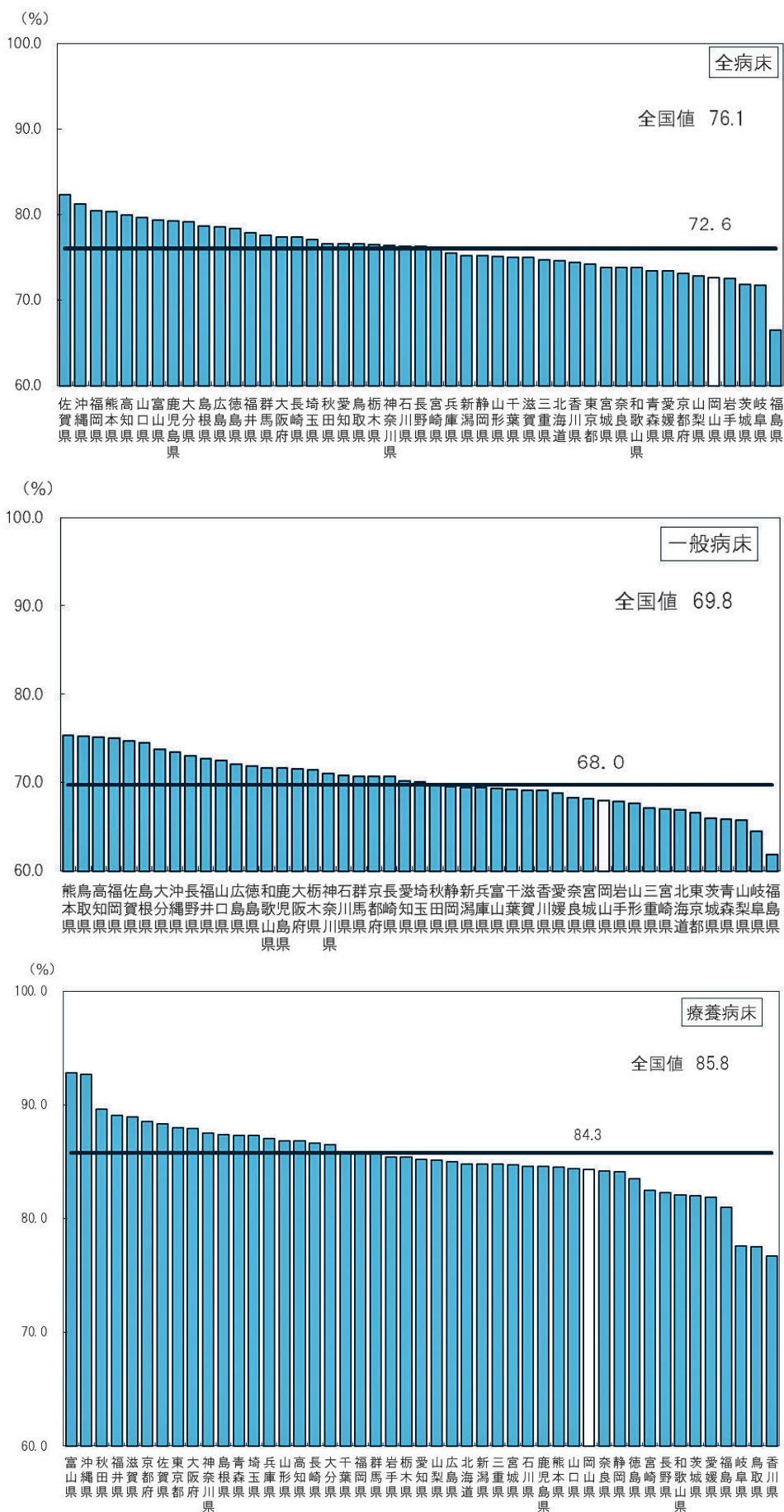
都道府県別に平均在院日数をみると図表2-3-3-3のとおりで、全病床では岡山県の27.1日に対し全国が27.5日となっています。

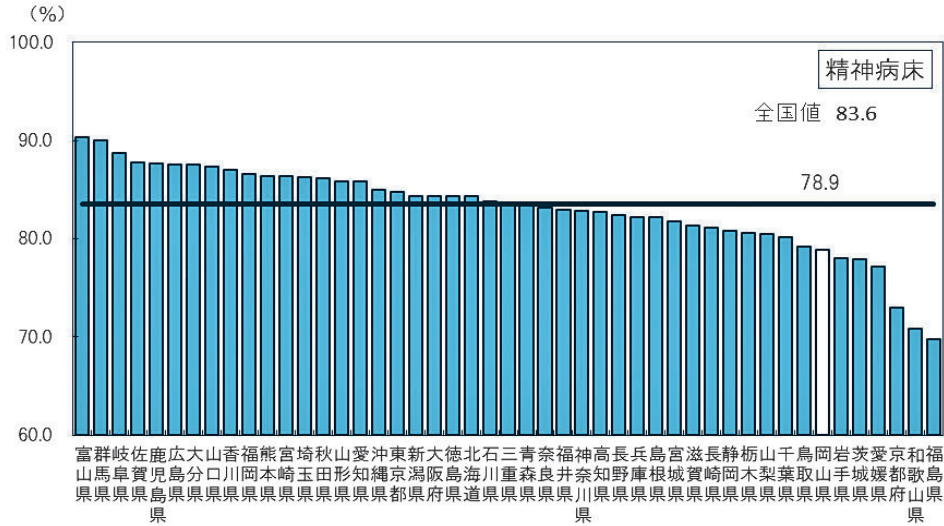
図表2-3-3-1 令和3（2021）年の病床利用率及び平均在院日数の状況

二次保健医療圏	病床利用率 (%)				平均在院日数 (日)			
	総数	一般病床	療養病床	精神病床	総数	一般病床	療養病床	精神病床
県南東部保健医療圏	70.1	65.6	85.7		26.7	18.0	121.0	
県南西部保健医療圏	74.1	69.5	87.1		25.1	17.2	119.3	
高梁・新見保健医療圏	81.2	82.0	67.0		43.9	22.3	92.8	
真庭保健医療圏	67.2	63.7	69.1		35.6	20.6	78.4	
津山・英田保健医療圏	80.3	76.0	84.7		32.6	16.7	107.5	
岡山県	72.6	68.0	84.3	78.9	27.1	17.7	114.3	234.0
全国	76.1	69.8	85.8	83.6	27.5	16.1	131.1	275.1

(資料：厚生労働省「令和3（2021）年病院報告」)

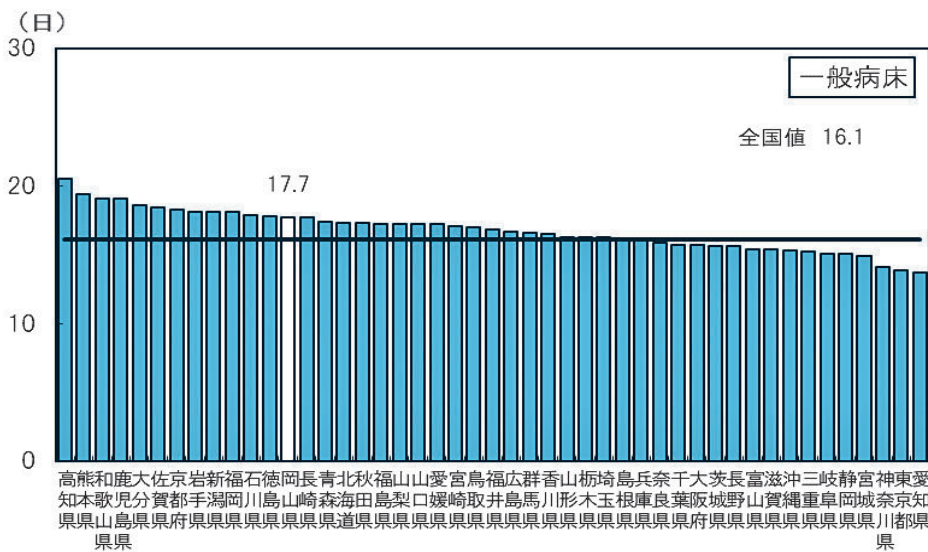
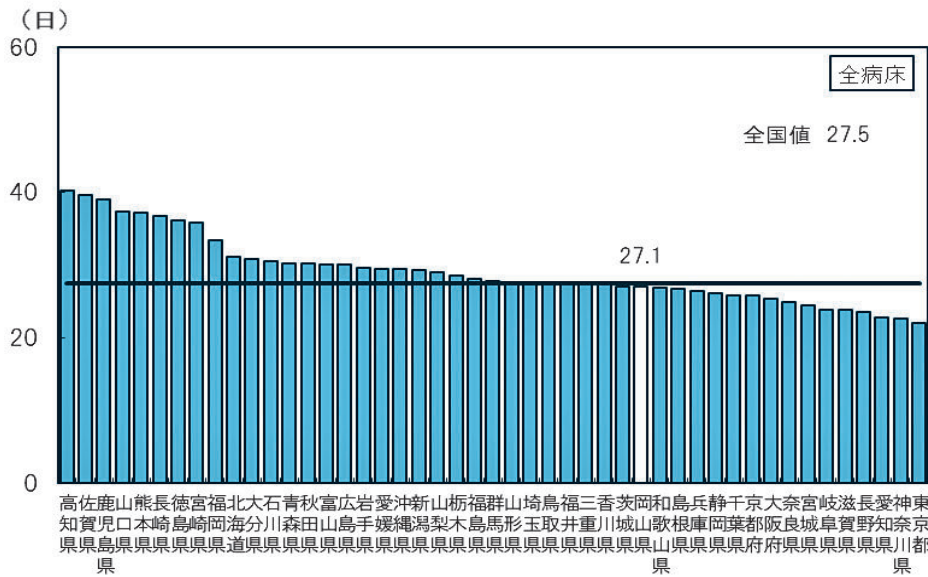
図表2-3-3-2 都道府県別病床利用率

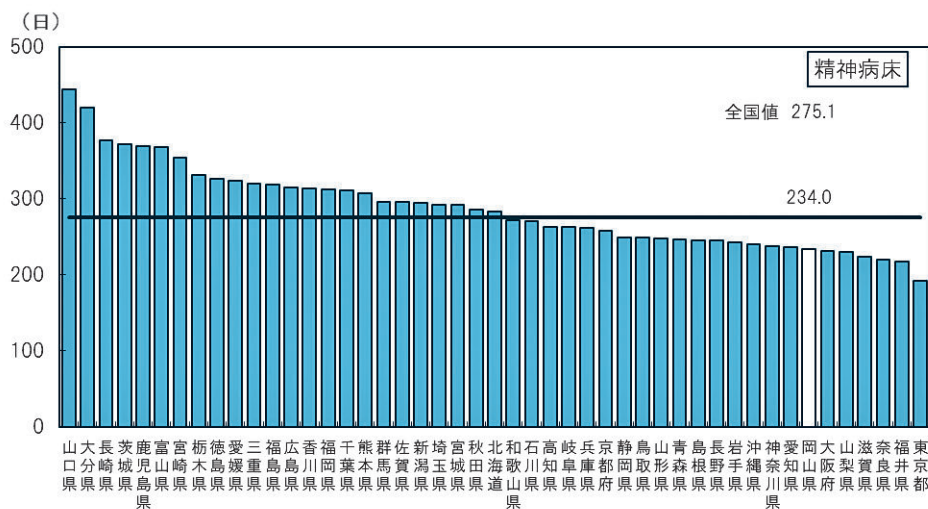
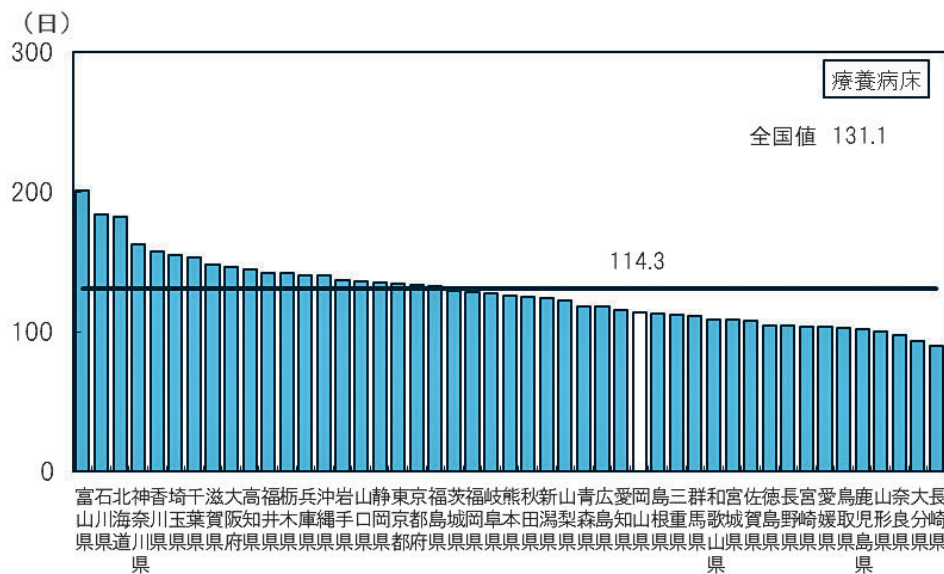




(資料：厚生労働省「令和3（2021）年病院報告」)

図表2-3-3-3 都道府県別平均在院日数





(資料：厚生労働省「令和3（2021）年病院報告」)

